

令和6年度「地域課題の解決に向けた協働推進事業」実施結果

(事業名)災害時に助け合えるまちづくり事業

実施主体

(団 体 名)公益財団法人 鹿児島県国際交流協会
(担当課名)男女共同参画局 くらし共生協働課



背 景

現在、県内の在住外国人数は17,358人(出入国在留管理庁統計。令和6年6月末現在)と年々増加傾向にある中、在住外国人は日本の災害に対する知識が乏しいため被災するケースが増えており、災害時の外国人支援が課題となっている。

このような背景から、各市町村において、防災に関する基礎講座や訓練等を通じて、地域住民等(外国人支援者)を交え、災害時に在住外国人とのコミュニケーションツールのひとつである「やさしい日本語」の普及のほか、自治体のハザードマップを利用して災害時の避難場所中・避難ルート・危険箇所の検討把握を行うなどの啓発が求められている。

また、災害時だけでなく、平時においても在住外国人と地域住民が相互に適切な支援・協力ができるようなネットワークの構築を目的として、災害時に助け合えるまちづくりを行う必要がある。

地域課題

- ・ 防災に関する講座などへの在住外国人(特に技能実習生)の参加の難しさ
- ・ 日本人と在住外国人との災害知識・防災意識におけるギャップ
- ・ 日本人と在住外国人とのコミュニケーションの難しさ
- ・ 日本人、在住外国人のお互いの「忌避感」の払拭の必要性・災害時だけでなく、普段からの挨拶や声かけ、イベントを通じた交流機会の創出

事業のねらい

1 言語の壁と文化の違い

- ・ 災害時の避難情報や生活支援情報が在住外国人に正確に伝わるか。
- ・ 日本や鹿児島県の災害の特徴、避難行動、防災意識の違いを在住外国人がどの程度理解しているか。
- ・ 地域住民と在住外国人の間の円滑なコミュニケーションが図られるか。

2 地域住民の意識

- ・ 地域住民が在住外国人との共生や防災にどれほどの関心を抱いているか。
- ・ 在住外国人に対する偏見や差別が、地域社会に根強く残っている可能性がないか。
- ・ 地域住民が在住外国人と積極的に交流し、支援活動に参加できるか。

3 行政・地域の連携

- ・ 行政、地域住民、在住外国人、それぞれの持つ情報が共有されているか。
- ・ 災害発生時、各主体が連携して迅速に対応できる体制が構築されているか。
- ・ 在住外国人が安心して生活できるための支援体制が整っているか。

事業概要

1 在住外国人を対象とした防災啓発講座

在住外国人に気象や防災の専門家から日本の自然災害や防災・避難方法など災害に対する正しい知識を提供することにより、災害時でも自ら適切な避難行動を取れるための方策を習得した。

2 地域住民等（企業・コミュニティを含む。以下同じ。）に対する意識啓発講座

近年、災害時や生活情報発信等での活用が有効とされるコミュニケーションツールである「やさしい日本語」の概要を学ぶことで、災害に特化した情報伝達の必要性について理解を深めた。

3 在住外国人と地域住民等によるワークショップ（AEDの使い方、災害情報の収集を含む。）・意見交換会

上記2つの講座に参加した在住外国人と地域住民が一堂に会し、ハザードマップを利用したワークショップで避難所や避難ルートの確認やAEDを使った心臓マッサージの体験を行ったほか、災害時の情報収集の仕方等を学んだ。



成 果

1 在住外国人を対象とした防災啓発講座

- (1) 実施日時
令和6年12月8日(日)10:30~12:00
- (2) 対象者
出水市米ノ津地域に居住する在住外国人 13名
- (3) 実施会場
出水市役所多目的ホール
- (4) 講座内容
「災害について知ろう」、「日本、鹿児島の災害」
講師:気象予報士 MBCウェザーセンター長 住吉大輔



2 地域住民等を対象とした意識啓発講座

- (1) 実施日時
令和6年12月8日(日)10:30~12:00
- (2) 対象者
出水市周辺の地域住民等 19名
- (3) 実施会場
出水市役所202号室
- (4) 講座内容
「災害時のやさしい日本語」
講師:ATLAS日本語講師 山下直子

3 在住外国人・地域住民等向け合同講座

- (1) 実施日時
令和6年12月8日(日)13:00~17:00
- (2) 対象者
出水市米ノ津地域に居住する在住外国人及び地域住民等 32名
- (3) 実施会場
出水市役所多目的ホール
- (4) 講座内容
 - ア 出水市の防災対策, 非常持出グッズについて
講師:出水市くらし安心課 防災対策監 益山 剛
 - イ ワークショップ「ハザードマップを利用した避難場所・避難ルート等の確認」
講師:鹿児島県地域防災アドバイザー 村野 剛
 - ウ 救急救命講習(AEDの使い方)
講師:出水市消防本部救急隊(5名)
 - エ 災害情報の収集方法について
講師:出水市くらし安心課 防災対策監 益山 剛
 - オ 意見交換会

協働の状況

- ・ 鹿児島県国際交流協会(事業実施主体)
- ・ 出水市(共催, 参加者の募集等)
- ・ 県くらし共生協働課(市等の指導・助言)
- ・ (一財)鹿児島県消防協会(講師派遣)
- ・ MBC ウェザーセンター(講師派遣)
- ・ ふれあいネットATLAS(講師派遣)

今後の取組

今回,出水市でモデル的に当該講座を実施しましたが, 今後は, 各市町村が地元字(あざ)毎または公民館毎に在住外国人と地域住民が一緒になった防災訓練を継続的に実施して, 地域住民も在住外国人も安心・安全に暮らせる町づくりのため, 当協会として, 講座の開催や講師派遣等について支援・助言をしていきたい。



「ハザードマップで確認しよう!」ワークショップ



「救急救命講習 (AED の使い方)」

協働事業の感想

団体からの声

多文化共生と防災に関する取組みは, 一過性の活動ではなく, 継続的な取組みとして定着させることが重要で, そのためには, 災害時だけでなく, 普段からの地域住民との挨拶や声かけ, イベント等を通した交流機会の創出が必要であると感じました。

担当課からの声

協会のノウハウを活かして出水市の御協力の下, 実りある協働事業となりました。これを契機として, 引き続き地域交流が継続され, 平時から顔の見える関係づくりが構築されていけば, より事業効果が高まると感じました。